

福島県PTA連合会会報
第18号_S59. 10. 25

大会主題

あすをになう心豊かで健やかな子どもの 育成をめざすPTA活動の推進

第三十三回福島県PTA研究大会須賀川大会は、九月七・八日の二日間にわたって、牡丹の街須賀川市で開催された。第一日目の七日、須賀川市文化センターにおいて開会行事が行われたが、県教育長あいさつのおと表彰に移り、ついで友田副知事・添田県議会議長等の来賓祝辞・高木須賀川市長の歓迎のことば・来賓紹介・祝電披露・阿部前県連P会長のお礼のことばを最後に式が終了した。次は分科会であるが、文化センター内三か所・温泉のある共同福祉施設労働福祉会館・卸センタ

ーの六分科会に分れ「あすをになう、心豊かで健やかな子どもの育成」を目指して各分科代表の实践報告があり、熱心な研究討議によつて、これらのPTA活動に大いに役立つ分科会であった。

第二日目は八日は、会場を市の体育館に移し、全体会及び閉会行

第33回福島県PTA研究大会 須賀川大会盛會裡に終わる

会場あふれる二千五百余の参加者



第33回福島県PTA研究大会

53-5 屋内会館八
部年連合会
田少年PTA
字少T井
岩青P国
黒島県刷
市島島
福島福
福島福
福島福
福島福
福島福

53-5 印刷所
13-1 印刷
7-1071 電話

事を行った。閉会式は、開催地代表のあいさつのもと、須賀川大会実行委員長から次期開催地である二本松市の代表に、県連P旗の引き渡しが行われた。休憩後、記念講演会が開催された。講師は、NHK放送総局特別主幹の磯村尚徳氏であり「世界の中の日本」と題して、約一時間半にわたつて熱弁をふるわれ、二千有余の聴衆に深い感銘を与えて、二日間の大会は無事終了した。

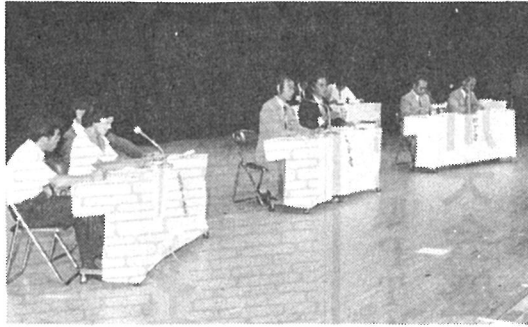
輝く受賞者

- #### 〰感謝状〱
- 阿部光寿(県連P前会長)
 - 太田豊彦(前副会長)
 - 大川原実(前理事監事)
 - 驚佳弘(同)菅野宗一(前理事・日P代議員)
 - 川井利治(同)浅尾八重子(前理事) 山上俊朗(同) 菊地龍太(同) 小林次郎(同) 五十嵐周司(同) 金田吉昭(同) 高木広志(達南地区連P事務局長) 金子忠雄(伊達地区同) 吉田文雄(郡山地区同) 宗像久明(田村地区同) 鈴木忠良(西白河区同) 小野康悟郎(東白川地区同) 佐藤文一(北会津地区同) 大久保春男(両沼地区同) 夏井久悦(耶麻地区同) 金成栄久(いわき地区同) 館下要蔵(双葉地区同) 佐藤信昭(相馬地区同)
- #### 〰表彰状〱
- 福島市立清水小PTA
 - 同市立笹谷小PTA
 - 同市立岳陽中PTA
 - 同市立西根中PTA
 - 飯野町立青木小PTA
 - 保原町立富成小PTA
 - 二本松市立平石小PTA
 - 同市立原瀬小PTA
 - 東和町立北戸沢小PTA
 - 安達町立上川崎小PTA
 - 白沢村立白沢中PTA
 - 郡山市立老海根小PTA
 - 同市立中野小PTA
 - 同市立逢瀬中PTA
 - 同市立橋小PTA
 - 同市立行建第二小PTA
 - 天栄村立羽鳥小PTA
 - 須賀川市立大東中PTA
 - 三春町立要田小中PTA
 - 同町立中妻小PTA
 - 田村郡石沢小・中PTA
 - 白河市立東北中PTA
 - 同市立白河第五小PTA
 - 矢祭町立関岡小PTA
 - 会津若松市立日新小PTA
 - 同市立東山小PTA
 - 同市立大戸小PTA
 - 同市立大戸中PTA
 - 塩川町立塩川小PTA
 - 下郷町立檜原小中山分校PTA
 - いわき市立小名浜第三小PTA
 - 同市立好間第四小PTA
 - 同市立勿来第一小PTA
 - 同市立勿来第一中PTA
 - 双葉町立双葉北小PTA
 - 浪江町立荊野小PTA
 - 原町市立原町第三小PTA
 - 小高町立鳩原小PTA
 - ほか個人一〇四名

第一分科会

分科会報告

めには、
個々の会
員が理解
しあい、
そのなか
ら参加者
意識が生
まれる。
という考
えからそ
の実践活
動を行う
ために従
来の形式
化した規



「実践的なPTA活動を展開するための組織運営のあり方をどうすればよいか。」
いわき市立第一小学校PTA会長池津絃堂、石川郡平田村立蓬田中学校PTA総務委員長岩崎八重子、河沼郡会津坂下町立川西小学校PTA会長鈴木晏の三氏よりそれぞれ視点に立つての提言があり、各地区より質問意見等が出され、その中で活発な討議があつた。「組織を運営していくた

約の改正がなされ、運営が機能的になり、スムーズに行われるようになった。」また岩崎氏より「低調であつた総会や授業参観の出席率がここ二年程急に高くなつた。その原因として、地域会員の主体性を尊重した部落懇談会、PTA会報の発行協力、鈴木氏より、PTAが単独で行う活動、各種団体と連携した活動により地域社会の人々の健全育成に対する関心、意識も高まり学校教育に対し理解も高まつた。」

第二分科会

討議した。PTA活動の原点は、あくまでも学校と家庭が協力して、児童生徒の健全な成長をはかるところにある。また今日ほど子どもの健全育成と教育問題がクローズアップされているときはない。したがって研修活動も、児童生徒の健全育成をはかることに重点を置いて進めなければならぬ。子どもの健全育成のための研修活動は、一つの学校や単Pだけでは不



このテーマについての提言について話し合いの柱として次の二点を設定した。まず第一は、父母と教師の会の連携に立つた研修活動を活発にするにはどうしたらよいか。第二の柱として、新しい時代に則して父母と教師の会を充実する活動内容として何をとり上げたらよいか。について活発に

十分で、町ぐるみ、地域ぐるみで組織的に行なわれなければならない。日新小学校では地域ぐるみで活動している実践例の発表があつた。第二の新しい時代に則した活動として、講演会やシンポジウムを開くときテーマを設定し、何を話し合うのかを明確にし進めることが大切である。一つの方法としてテレビ番組をビデオに録画し、地域懇談会などで共同視聴し効果を上げた発表があつた。

第三分科会

「非行化の波にうちかつための家庭教育をどのように充実させたらよいか。」
松陵中学校、中妻小学校、上郷小学校の三人の方々から事例発表があり、健全な子どもを育成するために家庭における生活行動様式の育成と親のあり方について熱心に討議された。その中で家庭では学習については関心は高いが、基本的な躰については、まだ関心がうすい。更に非行化の問題について、それと断言できざるものがないのではな



いか、そして家庭でも学校でも子どもの発達段階に応じた躰、基本的生活の習慣をつけさせることが大事である。物を大切にすることは、時間を大切にすることは、つながり更には親を大切に、人の教えを大切にすることもつながり、最後には命をも大切にするのではないかとこの話があつた。

最後に家庭教育が低下しているといわれる現代では、我々PTAも次代をになう子どもたちの幸せのために、家庭教育について真剣に考え、小さなことでも、すぐできるものから取り組んでいくことを確認した。また、良き社会人となるための芽を育てるために両親が手本となつてこれを行うという事である。賞賛を与え、良い事を奨励し、両親が見守る中でバランスよく経験させることが必要である。

須賀川大会

第四分科会

○テーマ

「心身ともにかまじい子どもを育成するために体育文化活動をどうすすめるか。」

よいか。」
たくましい子どもに育てるには、心身をきたえること、第二に自主性と主体性を育てること、心の豊かさを育てること、そして連帯感と隣人愛をはぐくむこと、といった問題意識がだされ、それらを体育活動、文化活動を通して、提言、事例発表があり、それらの手だてとして社会体育の分野で意見が出され、特にスポーツ少年団の活動や運営について活発な討議がなされた。スポーツ少年団の問題点と今後の課題について、一つの意識をはつきりさせること、一般的なスポーツのねら



第五分科会

○テーマ

「子どもたちの豊かな心の育成をめざす地域活動をどのようにすすめるか。」

いと共に地域ぐるみでもう一步踏みこんではどうか、二番目に指導者の育成について、三番目に、学校と家庭と社会との密度のこい連携、四番目に社会教育、社会体育がより浸透するために公民館活動の有効利用等があげられた。文化活動では、醸芳中より、親と子と教師のつどいがあげられ、郷土の研究、祭りたいこ民話等を共に学び、遊び、心のふれあいを通して逞しい子どもを育てているとの実践例の発表があった。

た。
次に地区夜間教育懇談会について地区民の強い熱意により校長、教頭先生だけでなく他の先生方の出席もあり相互の理解が深まった。
三番目に、校外補導については委員だけでなく全員参加により、危険か所の点検及び、見通しの悪い所などの下枝の切り落としなどを行い、地域の交流などにも良く馴染み、非常に役立つているなどの報告があった。
次に学校給食について現在、ご飯給食やその他の給食はだいぶ進んでい



第六分科会

○テーマ

「心身に障害をもつ子どもの教育をPTA活動の中でどのように理解し協力すればよいか。」

るが、何んと言つても母親の手づくり弁当が子ども健康づくりには一番良いのではないか、これからは母親弁当と子どもとのふれ合いを深めていきたい。
最後に助言者の先生より、何といつても親の生きざまが大切ではないかそしてある程度無言の教育が必要ではないか、それには親たちは子どもの鏡にならなければならぬ。絶対に甘やかしの教育は改めていかなければならないとの貴重なご指導をいただいた。

が、何んと言つても母親の手づくり弁当が子ども健康づくりには一番良いのではないか、これからは母親弁当と子どもとのふれ合いを深めていきたい。
最後に助言者の先生より、何といつても親の生きざまが大切ではないかそしてある程度無言の教育が必要ではないか、それには親たちは子どもの鏡にならなければならぬ。絶対に甘やかしの教育は改めていかなければならないとの貴重なご指導をいただいた。



くそうとする方向が見られ、多くの面での協力が少なすぎる。
4. 中等部、高等部の教育確立がされておらず、心障者が大きくなつてからの教育の場と生活に對して不安である。
特に老後のことになると話がとだえ、行政に對して切実に早い解決を望みたい。しかし泉崎小のように健常児と同じクラスで学び、学校側、先生子どもたちの一致協力した教育により心障児が明るく元気に育っている発表があった。

1. 入学時の配慮として教育委員会及び学校側も事務的に処理しようとする気配があり心障児の家族の望む教育とは、大きな差があった。
2. 学校長の心障者に対する考え方や、担任の先生の対応により、子どもの成長が健常児よりも大きく左右されているという点。
3. PTA活動の中で、特に地域社会が心障者に對して、大部分が理解されておらず、反対にか

県研究大会を 単Pの活動に生かす

保原小PTA会長
末永俊昭

毎年のことながらすばらしい大会だと思ふ。PTA本来の目的達成を目指して各単P・各連Pの純粋な努力の結果が県大会に凝集されるといった実感がある。このような研究大会を開催できるということは、福島県PTA連合会としての誇りであらうと思ふ

初めて参加して 深い感銘

中谷第一小PTA会長
塩田金次郎

「百聞は一見にしかず」という言葉がありますが私も初めて研究大会に出

須賀川大会に参加して

に敬意を表したい。

本年度で33回を迎えたわけであるが、これまでそれぞれ大きな課題を克服して来たであろうし、これからも今までにない困難な教育的・社会的課題が山積みしていることから、いつそう逞ましいPTA大会(活動)となるよう更に新たな道を切り開いていく努力をしていかなければならぬと強く感じさせられた。

各分科会の熱気・全体会の内容等、すべてPT

Aの積極的な在り方が顕現されていて心打たれるものがあつた。県大会参加の感懐は、わが保原小PTA運営の上に大きな力となることに感謝したい。

でも有意義だったと思ひます。PTAの歴史は古く、長い伝統の中でマンネリ化したとの見方もありますが、親と教師が力を合わせ、正面から子供のこ

とについて真剣に勉強し考え、経験をわかち合い知恵を出し合つて、今こそ努力すべきときであることを痛感しました。最終日の記念講演は、私たちの視野を広げてくれました。

初期の目的に向かつて前進することを誓いながら帰途に

席し、多くの先輩諸兄、各地域で活躍されているPTA役員と一縷になつて、組織運営や数々の諸問題テーマ等について議論し、大いに勉強になりました。

社会の変化と文化の発展 に即した実りある大会

平第一中PTA
会長 吉田稔充

「あすをになう心豊かで健やかな子どもの育成」を大会主題とした須賀川大会は、私たちPTAにたずさわる者に新たな課題を投げかけた大会であつた。

その理由の第一は、各分科会での発表や協議の質の高さである。発表内容の根底には、未来に生

大会事務局の声

りした。分科会場等は、子どもの授業に支障を来たさないよう考慮し、福祉施設を借用することにした。

昨年春の段階で地元では、次期開催地は須賀川ではないという認識があり、地区総会にもこのことは提案がなかった。事務局校の交代も、それではと簡単に引き受けた。

ところが、六月の県P評議員会に出席して驚かされた。須賀川開催については、二月頃の理事会でほぼ確認されていたことである。早速、地区臨時会長会を招集し、須賀川開催案を提案した

その後、県連P会長さんたちの奔走があつたので、再度会長会が招集され、漸く引き受けることを承認された。以後も、順調に推移したわけではない、例えば、9月28日開催案が県議会の関係

を得なかつたり、二日間とも体育館でという案も、準備委員会でも、一日は文化センターを使うべしと変更させられたりした。二会場案になつて予算の変更が必要となり、協賛金増額をお願いした

間とも天候に恵まれ、比較的スムーズに終了出来たことはうれしかった。県P役員の方々をはじめ、参加された会員の皆様方のご協力と、大会の各係になられた地区会員の皆様方の絶大なご支援・ご協力のたまものと、深く感謝申しあげる次第である。



感銘深かった記念講演

世界の中の日本

講師 N H K 磯村尚徳先生

県PTA大会の二日目 九月八日午前十一時から記念講演会が開かれ、NHK放送総局特別主幹・磯村尚徳氏を講師に、めまぐるしく変わる世界情勢と日本についての内容で約一時間半聴講した。

第一線の放送記者、ルポライターの講演とあつて県内から集ったPTA関係者は勿論、一般市民も多数詰めかけ、「生で聴く国際情勢」に真剣な表情で耳を傾けていた。

過日、ロスで行われたオリンピックの放送取材の団長としてアメリカに行ってきた。今世紀最大の百四十ヶ国が参加して行われたが、その中で感じたことは、

1. アメリカ合衆国の強さである。まさにゴールドラッシュであった。なぜアメリカが強いかを考えると、多民族国家のたくましさ、何んでも

1. 主主義の国民。いわゆるスポーツ帝国主義の国のせいであろう。

2. 今回のオリンピックはコマーシャル主義(商業主義)で経費が全部民間の手で賄なわれたことである。但し商業主義のアメリカの五十三%の人は、こんなことは許されないと批判していた。

3. オリンピックは体力を競う競技であるが、正に暴力である。より速くより高く、より強い者が勝つ。最大の暴力である軍事力と連なる。日本が振わなかつたのは、ここ三十年間平和主義であったからである。

次に外から日本を見る時、たくさん優れている点が見られる。その一つ

に教育があげられる。高校の理科に例をとり、アメリカと比較すると二年程度進んでいる。ユネスコの調査でも小学六年の学力を比較する時、日本は五〇、二に対して、フランス三三・〇、アメリカ二五・三でアメリカは日本の約半分である。また日本は殆んど文盲がないのに対して、アメリカは二六〇〇万人の文盲者がいるということである。

このように超優等生である日本でも、世界の反発が大きい。オリンピックの入場式でも日系人の拍手はあつたものの外国人のそれと比べると決して多くはなかつた。それは日本は経済大国にのしあがつたからである。アメリカでは日本の国を動物に例えて、クジャク、オオカミといっている。即ちクジャクは

高慢さを意味するものである。フランスのある政治家は、「日本という経済大国と、ソ連の軍事大国がなくなればなんと幸せな世界だろう。」と言つていた。このように世界を相手にサラキン業者と化した日本を非難しているのである。

以上いろいろ申し上げたが、一番言いたいこと



児童・生徒の校外活動が並びに、PTA活動がますます盛んになるにつれて、それに伴ない不慮の災害事故も多発し、補償等について、いろいろな問題が山積し、県PTA連合会も深くこれを憂慮しておつた。

当時、本県だけでなく日本PTA・東北PTA協議会においても、これ等の問題を緩和、または解決する補償制度を確立する方法はないかと、全国的に研究されていたのである。

東北では、宮城県、山形県が他県に先がけてPTA安全互助会を設立、共栄火災海上保険相互会社と提携し運営にあたつた。本県においても当時の会長はじめ、役員がその要領・内容について研究し、現在実施しておる福島県案を作成し、今を去る十年前、昭和四十九年六月三日、総会において、県連Pの一事業として県PTA安全互助会を

創設することが、可決された。

創設時は、無よりの出発から、各学校・PTA会員に理解と協力を得るために、各理事、役員の方たちが、その説明に東奔西走した。

その後、加入会員の要望もあり種々改訂されておるが、皆様のご理解とご協力を得て、県下中学校単P数の七十五パーセントに達する加入率に上昇している。

創設後十年、一つのふし目として、本会の歩みを顧みるとともに、先輩各位の功績を讃え、今後の発展を期するために、創設十周年記念事業を施行することになった。

一、創設十周年記念式典 昭五九・一二・三 於 青少年会館

一、「十年の歩み」編集 止ポスター展

一、子ども災害事故防止 習字展

PTA安全互助会 創設十周年を迎える 記念事業施行

< 福島 >

読まれる新聞をめざしての広報活動

福島市立笹谷小学校PTA

わがPTAの特色は何と云っても広報活動であろう。広報委員会で発行している広報紙「ささや」は十年來各種コンクールに参加し、つねに上位入賞を成し遂げ、笹谷小PTAの名をいやがうえにも高めてくれている。その広報委員会の活動の様子を紹介したい。



(輝かしい広報紙)

組織は、各学年より選出された五十八名(学級二名ずつ)と学校側二名の構成で、メンバーは毎年全部新人。委員長も新人の形でスタートするのが常である。次に、活動状況だが、「読みやすく、わかりやすい」をモットーに二種類の広報を発行している。1. 機関誌「ささや」活版印刷タブロイド版(四ページ、年間三回発行(七・十二・三月)毎回二箇学年の委員(十八・二十三名)が担当。編集で一番力を入れている面、また一番苦勞する面は、見開きになる二・三ページに組まれる「特集」(今年七月発行51号の特集は「食卓の会話お宅では?」をテーマに児童の食事についてのアンケートをもとに展開)である。何を特集にするか、どのように取材するか、などなど、そのための会議十数回。見出しのことは、書体を考え、飾りけいやカットの書き入れ、すべてが

委員の手書きだ。そして印刷所へ廻る。2. 速報「ささや」手書き印刷、B4版を上質紙両面刷りで、年間六回発行。一学年一回編集担当。発行に当たっては、まず速報性と親しみやすさに配慮。毎号連載の「先生の横顔」は必ずぶる好評である。これは委員が先生を訪問してインタビュー、記事にする。手書き原稿は、そのまま印刷室へ廻って印刷、配布。とにかく、委員全員、ずぶの素人なので、四月に前年の委員長にきていただき、広報発行のいろはを研修六月には、新聞社より専門の方をお招きして「魅力ある広報紙の作り方」について研修。なんとか、今年度の第一号(通算51号)を発行することができた。今後「読まれる新聞」発行を目指し、努力したい。

特色あるPTA活動

< 安達 >

地域の大人と子どもふれあいをめざして

本宮町立岩根小学校PTA

当岩根学区は、古く、苗代田村という名が示すように、水田の広がる農村地帯であるが、社会の様相が一変した今日、父母の生業とする農業に興味や感心を寄せ子どもが少なくなっているのを残念に思う。農業を軽視する風潮がこのような現象を生むのか。親としても大いに反省のほしいところである。このような背景をふまえて、学校が行う勤労活動に対して、側面的な援助活動をするのとを、本年度PTA事業の重点のひとつとして掲げた。地域農業のありかたを、体験的に知らせることが、地域に生きる子ども、もの見かたを考えかたの基本になると考えたからである。



(作業に熱中する子供達)

○ 援助活動は環境整備委員会が行う。
○ 活動に要する予算は廃品回収の益金の一部を充当する。
○ 農作業の基本になることをていねいに教える。

子どもたちに教える講師団を組織する(祖父の有志者に依頼する)PTAと学校との度重なる協議より右のように決定した。耕地は約七アール程を地域の人のご好意により提供を受け、整地した。作業を通して、地域の大人と子どもたちの交流が生まれ、ほほえましい光景が幾度となく見られた。収穫はカボチャ九十個、トウキビ八十本、サツマイモはまだほりおこしていないが百二十キロくらいは収穫が予想されている。すでに、「いも煮会遠足」を行い収穫の一部を食している。このようにして、予想以上の成果をあげることができたのは、環境整備委員会の一貫したリーダーシップによるところは大きい。陰に陽に協力を惜しまなかった会員の熱意によるものと感謝している。この事業を通して大人と子どもの信頼関係が膚と膚で感じることのできた「収穫」は何にも増して貴重なものであった。

＜西白河＞
**子ども・親・教師
 のふれ合いを深める
 学年PTA活動**
 白河市立白河第二小学校PTA

「歴史のまち白河」は東北地方の玄関口にある人口四万四千の小さな城下町である。本校は市街地の西部を学区とし、明治十九年に創立された児童数一四二名の学校である。本校PTAは、会員一人一人が、よき父、よき母として家庭の果たす役割を自覚し、学校や地域との連携を深めながら、児童の健全な育成をはかることを目指している。本校のPTA活動は

1. 専門委員会活動
2. 方部PTA活動
3. 学年PTA活動

本年度実施された学年PTA活動のいくつかを紹介する。

【一年生の朝顔祭り】

理科学習の一つとして朝顔の成長過程を調べることになっている。夏休業中、家庭で親子が、学校で育てた朝顔を管理して再び学校に戻す。この朝顔を体育館に集め、親と子で「はり絵」を共同制作して楽しく一日を過ごした。

【二年生の親子運動会】
 初秋の午後、ダンスや学級対抗親子全員参加リレーなど、楽しく親子運動会が繰り広げられた。

【五年生の南湖公園クリン作戦】

児童二百一名、PTA

(楽しい学年PTA活動)



会員百六名が参加。県立南湖公園の広場、湖岸、球場、周辺の山など、空カンや紙くず、タバコの吸いがらなど親子でゴミ拾いをした。このあと親子でドッチボールを楽しんだ。

【四年生のいも煮会】

理科の学習を兼ねて栽培したジャガイモとPTA会員が育てた大根を使って川原で、いも煮会をもった。

食後、近くの小学校々庭でフオークダンスやボール運動を楽しんだ。

【六年生の親子那須登山】

夏休みの一日を親と子が苦業を共にし、自然にふれ身心の鍛錬をめざして那須登山を実施した。児童百八十二名。PTA会員百八名が参加した。

これからも三年生の親子リンゴ狩りをはじめ、数々の学年行事がある。

特色あるPTA活動

＜南会津＞

**子どものすこやかな
 成長を願って**

南郷村立南郷第一小学校PTA

南郷第一小学校は、南会津郡の西部地区一町四か村のほぼ中央に位置し、児童数一七〇名の学校である。本校PTAは学校、家庭、地域が協力して、児童の福祉の増進と、すこやかな成長を図ることを目的として活動しており、その活動がまた会員自らの人間としての資質を高め、会員相互の人間関係をより豊かなものにするのをねらっている。

そのために次の五つの事業を積極的にすすめている。

1. 会員相互の協調と教養の向上
2. 学校、家庭、社会教育の振興と向上
3. 児童の保護、福祉の充実
4. 学校教育施設々備の充実への協力
5. 健康増進とその厚生活動の中核となるのは四つの専門委員会、委員長を中心に活発な活動がなされている。



(会員による花壇づくり)

◇ 手づくり会報の発行
 この会報は、毎月一回発行しているもので、各地区ごとに教養委員が順番に更紙一枚程度のものでつくっていく。内容は各地区にまかせてある。

◇ 親と子の文集発行
 親と子の作文が一つの文集にまとめられ、家庭に配布される。執筆率九〇パーセント。親と子のふれ合いの場となる。

◇ 生活補導記録カードの活用と校外補導
 毎月各地区生活補導委員より、各地区での子供達の生活の様子を記録したカードが提出される。これにより校外での児童の生活の様子がキャッチされ生徒指導に生かす。

◇ スキー教室への協力
 学校で実施される年間約二〇回程度のスキー学習に、学年委員会が中心になり全父兄を班に分け輪番制で、学級担任の計画に従って主として技術面を担当し指導にあたる。

以下その活動の一端を記してみたい。
 ◇ 奉仕作業による学校環境の整備
 豊かな人間性の育成を目ざす学校教育に、整備された環境は重要な役割を果たす。村当局は勿論であるが、PTAの協力もまた教育的価値がある。

昭和59年度PTA安全互助会加入状況 (59.9.30現在)

区分 地区	小・中 学 校 別					
	小 学 校		中 学 校		合 計	
	加入 単P 入数	加入 率	加入 単P 入数	加入 率	加入 単P 入数	加入 率
福島南	46 (14)	95.8%	18	78.2%	64 (14)	90.1%
達南	14 (1)	100.0	3	100.0	17 (1)	100.0
伊達	28 (9)	93.3	7	100.0	35 (9)	94.6
安達	24 (7)	72.7	6	50.0	30 (7)	66.7
郡山	44 (2)	75.9	9	37.5	53 (2)	64.6
岩瀬	19 (3)	79.2	9	69.2	28 (3)	75.7
石川	26 (8)	100.0	6	75.0	32 (8)	94.1
田村	32 (6)	84.2	12	70.6	44 (6)	80.0
西白河	23 (7)	85.0	10	76.9	33 (7)	82.5
東白川	14 (2)	63.6	1	25.0	15 (2)	57.5
若松	12	75.0	6	66.7	18	72.0
北会津	15 (1)	93.8	4	66.7	19 (1)	86.4
両沼	14 (4)	77.8	2	20.0	16 (4)	57.1
大沼	10 (1)	100.0	4	100.0	14 (1)	100.0
耶麻	24 (1)	72.7	10	58.8	34 (1)	66.7
南会津	19	100.0	11	100.0	30	100.0
いわき	30 (9)	41.1	9	21.4	39	33.9
双葉	19 (5)	100.0	11	100.0	30	100.0
相馬	30 (16)	93.8	14	100.0	44	95.7
合計	443 (96)	79.7	152	61.0	595 (96)	73.9

県PTA安全互助会だより

加入率一段と上昇

県連Pの一事業として施行されている県PTA安全互助会は、発足以来10年たち、本年度は、本県小・中学校八〇五校中五九五校が加入し、加入率は七四パーセントとなった。そのうち、達南地区、南会津地区、大沼地区、双葉地区の四地区が一〇〇パーセントの加入率を見、昨年度より約三万人の増で、ますます充実している。

次の表は、各地区加入状況一覧である。なお、()内幼稚園数を表わしており、養護学校三校は含まれていない。

死亡事故 半年で十一名

学校管理下外における児童・生徒の事故発生件数は、半年で六五五件、PTA会員は八七件である。そのうち死亡事故は十一件で、交通事故死三件、水死七件、焼死一件となっている。昨年度は一年で三〇件もの死亡者をだしたが、本年度はこれ以上の犠牲者がでないよう災害事故防止に努めたいものである。

こんな事故がありました

【事例一】 風呂をわかそうとして紙と薪に灯油をかけて燃やしたところ、ガソリンに一時に発火し、ズボンに燃えうつり、火傷を負った。その後、入院治療を受けていたが、敗血症のため死亡した。

【事例二】

PTA会員の傷害はPTA球技大会練習中、球技大会中に足をくじいたり、ひねったりして捻挫骨折をする事故が大部分

である。

【事例三】

学童では、道路を自転車で行中転倒、自動車のドアに接触して受傷するケースが多い。

【事例四】

自宅の庭で草むしりをしていてマムシにかまれ入院するという事故があった。

事故はどんなところに発生するかわからない。気をつけてほしい。

事務局だより

行事予定

- 一〇月
 - ・ 県へ次年度予算確保要望書提出
 - ・ 母親リーダーセミナー
 - ・ 三方部開催
 - ・ 「県連Pふくしま」会報発行
- 十一月
 - ・ 東北P秋田大会開催
 - ・ 安全互助会創設十周年記念式実行委員会
 - ・ 事故防止ポスター及び習字審査会
- 十二月
 - ・ 理事・郡市連P事務局長合同会議
 - ・ 安全互助会創設十周年記念式典(二、三)

福島県PTA
母親リーダー
セミナー開催

PTA母親リーダーセミナーも第五回目を迎えた。母親リーダーとしての資質の向上をめざし、PTA活動のあり方、並びに母親としての役割等について研究を深めるとともに、県内PTAの相互の交流を図るために、左記により県内四地区で開催される。

- 主催 福島県PTA連合会
- とき・ところ
 - 県北 十月二二日 福島県青少年会館
 - 会津 十月二四日 会津若松市中央公民館
 - 県中 十月二六日 須賀川市中央公民館
 - 浜通り 十一月七日 富岡町文化センター
 - 参加者 各分部四八名 講師 齋藤 健一 先生

編集後記

○ 会報第18号「須賀川大会特集号」をお送りする。○ 本会報発行についてのいちばんの悩みは、原稿がなかなか集まらず、連絡にも手間どるといふ点である。○ 幸い、本号は、須賀川大会の原稿が早々と届きすばらしい大会の全容まではいかなくても、概要はご理解いただけたものと思う。○ 多くの原稿やら写真、資料など、まとめたいただいた大会事務局に深く感謝するとともに、この大会での成果を、ぜひ各単Pの活動に役立ててほしい。○ 写真入りの「特色あるPTA活動」は大へん好評で、わが地区のわが単Pでの声もあるが、各地区輪番で、次々に紹介していきたい。ご期待を乞う次第である。○ 本会事業の一つである「県PTA安全互助会」は、今年で十周年を迎える。いろいろな記念行事が計画されているので、次号でくわしく報告したい。○ 秋たけなわ、各単Pのいっそうのご発展と会員のご健康を祈るや切。